

# 知事対談

山口明夫 × 仁坂吉伸  
日本IBM  
代表取締役社長  
和歌山県知事



## 今こそ、地方が活躍できる 新しい時代の幕開け

新型コロナウイルスという未知の敵と対面し、世界は大きなターニングポイントに直面した。しかしそれは悲劇だけに終わらせてはならない。都市と地方の再構築のチャンス。今こそ和歌山の素晴らしさを再認識し認知を広め、新しい時代の舞台へと変身する時機である。

仁坂知事(以下仁坂) ● 山口さんは世界

170カ国以上でビジネスを展開するIBMの日本人の社長ですが、旧那賀郡桃山町(現紀の川市)出身で、ご実家は代々農業を営んでいるとお聞きしました。まずは故郷の思い出をお聞かせください。

山口明夫(以下山口) ● 桃の産地として有名な桃山町生まれで、実家は桃だけでなくみかんや米も作る農家です。両親や祖母、曾祖母までもが土日もなく働いていたので、小さい頃は父母たちが働く桃畑や田んぼ、川や山といった和歌山の自然の中で友達と毎日遊んでいました。そして高校生の頃から理系に興味を持ちますが、それほど明確にコンピューター関連を目指していた訳ではありませんでした。

仁坂 ● その後、大阪にある理系の大学に

進学されます。

山口 ● 当時はようやくコンピューターという言葉が入ってきた時代です。大学で初めてIBMの大型コンピューターに触れ、これは何だか凄いいことになるだろうなって直感しました。とはいえ農家の長男だったということもあり、卒業したら和歌山に戻るんだろうなと思いつながら大学生活を送っていました。そんな学生生活の中、アルバイトをしながら教わったのは働くことは楽しいこと、ということ。というのも職場で知り合う方々がみんな良い人なんです。日本IBMの社長に就任したことをある新聞で紹介していたのですが、それを見た学生時代のアルバイト先の店長が、店頭でその記事を貼り、「おめでとう」と書き加えた写真を送ってきてくれました。恥ずかしながらも、私のポジションを嬉しく思ってくだ

さっている方の存在に感動しました。

時代の最先端を駆ける  
日本IBMの存在価値

仁坂 ● そして大学卒業後、日本IBMに入社されるわけですが、IBMは当時から理系学生に一番の人気企業であり超難関でした。

山口 ● 大学の教授から日本IBMを勧められました。人気があがるが厳しいところだ、という評判も聞いていたので、一度は断ったくらいです(笑)。まさかその後、30数年もこの会社で働かせていただけるようになるとは、その当時は全く思っていませんでした。

仁坂 ● そして2019年に社長に就任され、世界を代表するIT企業で活躍されていることは大変誇らしいことです。リーダーとしてすでに様々な取り組みを進め



和歌山県北部紀の川沿いに位置する紀の川市桃山町。西日本最大級の桃の産地で全国的にも有名な「あらかの桃」の生まれ故郷。500戸ほどの桃農家が密集し、3月下旬から4月上旬にかけて桃の花が一斉に咲き誇り、あたりは甘い香りにつまれる。



性。そして三つ目は「オンラインの重要性」です。例えばコロナでオンライン授業を余儀なくされたのですが、それは対面よりもいい面もあるとか、様々なことが考えられるようになりました。これらのような大きな認識の変化により、和歌山のような地方都市にもチャンスが出てくるようになると思います。

**山口**●知事がおっしゃられた通りで、既存のテクノロジーも上手く活用すれば、世の中を変えられると多くの人が感じたとと思います。この状態をどう理解してどのように活用するかということが本当に難しいけれど、チャンスでもあると思います。このコロナ禍で多くの企業がテレワーク等を導入することで、ダイナミックに変わってきました。例えば、毎日会社に通う必要がなくなり、東京都外に引つ

# 知事対談

山口明夫 × 仁坂吉伸

日本IBM代表取締役社長 和歌山県知事

山口明夫

1964年、旧那賀郡桃山町（現紀の川市）生まれ。2005年に米国IBM本社の役員補佐。2017年より取締役専務執行役員、米国IBM本社の経営執行委員に就任。2019年5月から日本IBM代表取締役社長に就任。

られているとお聞きしました。

**山口**●ありがとうございます。私はずっと最初に行ったのは「日本IBMの価値の整理です。テクノロジーの進化と共に、それを活用し社会に役立つ解決策を提供しているIBMが世界中にたくさんあります。一つは、その素晴らしいソリューションを「日本に持って来る」こと。そしてもうひとつは逆に日本企業の素晴らしいソリューションを「世界中に広げること」でした。そのためには「自分たちが何者であるか」ということを日本中に広め、また「日本IBMが何をしているのか」ということを世界中のIBMに知らせることに努力してきました。

**仁坂**●実は、通商産業省（現経済産業省）時代の80年頃にコンピューターの担当をしていたことがあります。特にソフトウェア



越したり、介護や育児などで時間的制約から長時間会社で働けなかった人たちと、出張もできお客様と対面しバリバリ仕事をしていた人たちとの差がなくなってきました。さらに研修会などがオンラインで行われるようになり、東京では情報を得やすく地方では得難いという情報格差が少なくなりました。これらのように皆が同じテーブルで競争できるようになったことで、本当の実力主義というか、働く環境の平等化が進んだ気がします。

**時代の先を見据えて**

**仁坂**●和歌山県内の白浜町や田辺市、和歌山市などでは、以前から首都圏等からのアクセス面やテレワーク等に必要全国屈指のネットワーク環境の良さなどから、多くのICT企業が来始めてきています。特に白浜町などは海や温泉をはじめ、世界遺産である熊野古道にも近いので非常に人気があり、企業進出だけでなく、和歌山県が全国で初めて取り組んでいるワーケーションとしてもよく利用されています。

**山口**●そうですね。和歌山は関西国際空港にも近く、南紀には白浜空港もあり、時間的に東京とも近いんですね。

**仁坂**●そうですね。また空からのアクセスだけでなく、高速道路の利便性もよくなり、東京はもちろん世界とも繋がっているんですね。都市であることのメリットや地方であることのデメリットの差が

エアの方を中心に担当しており、その当時、自分に課したミッションというのがコンピューターの普及とソフトウェアの会社の養成でした。その当時から情報化を進めるにあたっての制度づくり一つにしてもIBMは推進役として存在していましたし、ハードウェアの開発でもIBMは大きな壁のような存在でもありました。その後、日本の企業がようやく追いついたかなと思つたら、一足早く時代の変化を読んでパーソナル・コンピューター（PC）部門を手放し、ソリューションを主軸とする会社に変身するなど、IBMは世界を先駆けている企業でした。そんな世界の中で山口さんは社長になった訳ですから大変だと思います。さらに大変なのは「日本ならではの特性がありませう。欧米だとソフトウェアに自分の仕事を合わせてくれるんですが、日本の企業は自分の仕事の方法にこだわります。そんな日本独特の特性の中で、日本IBMはうまく調和をとって、やっていくといった大変なご苦労をされながら発展してきたのだと思います。

**山口**●本当にお詳しいんですね。私の苦労をそのまま、お話いただいた感じで（笑）。日本企業のトップの方々はもちろん素晴らしい方が多いのですが、日本の商習慣と世界のスタンダードとのギャップをどのように埋めるのかというのが、私たちがチャレンジしてきたことでし

た。それはシステムの仕様だけでなく、ニーズをどう理解するかが重要なんですね。アメリカから言われたことだけを提案しても、日本のお客様から言われることだけに対応しても価値がない。お客様のことを本当に理解し、3年先5年先のことを考えて提案してきました。また私たちのテクノロジーや解決策が「お客様の役に立っているのか」ということ、「社員が本当に輝いて働けるのか」ということを大切にしなければいけないと常に考えています。

## コロナにより変換点を迎えた日本社会の方向性

**仁坂**●今、世界的に新型コロナウイルスの感染が拡大している中で、ウィズコロナやアフターコロナなどと言われる社会において、感染の抑制はもちろんですが、経済と生活を守ることも重要だと考えています。自粛だけでなく経済や生活が破壊されてしまうため、感染の抑制には保健医療行政で頑張り、経済と生活はできるだけ制限をかけずにということが一番だと思っています。またコロナ禍で世の中が大いに変わってきたことでもあります。一つ目はテレワークをしてみたら「東京に一極集中する必要が意外となかった」ということです。二つ目は、サプライチェーンが寸断したことからも国際分業をコストだけで進めてはいけないという、製造拠点を国内回帰の必要

薄れている今、これを機にいつかはIBMの一部でも和歌山に来てくれないかなと（笑）。色んな可能性が広がるという意味では、面白い世界になっていく一方で、これからもしっかりと未来を見据えて、働きかけて行くことが必要だと思っています。最後に山口さんから和歌山県の今後に期待などありましたら教えてください。

**山口**●和歌山の良さって、やっぱり人の温かみだと思います。昔、まだ子供が小さい頃、車で帰郷し和歌山インターで降りる時、チケットを切ってくれるおじさんが「よう帰って来たね、お疲れさん」と声をかけてくれたんですね。あの雰囲気はたまらなく好きです。他にもパンダが生まれたとか、そんなニュースを聞くとすごく嬉しいんです。さらには自然もあるし果物も美味しい。今も和歌山県民、和歌山出身ですと誇りを持たせてもらっています。バーチャルの世界は、地理の距離を超えているんなことに挑戦できる。県としてそういう取組をしっかりとされている。それは日本だけじゃないと世界に通じ、世界や人類の発展に貢献できる和歌山県で今後もあって欲しいと思っていますので、これからもどんどんチャレンジして欲しいと思います。

**仁坂**●今後も県外に出て活躍されている方々に、誇りに思ってもらえるような和歌山に、みんなで協力してやっていきたいと思っています。本日は本当にありがとうございました。